

総合人文科学研究センター 活動報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

DC セミナー

日時：2022年4月6日（水）11:00～12:00

場所：Zoom 開催

早稲田大学総合人文科学研究センターでは、キャリア初期研究者支援の一環として、毎年《日本学術振興会特別研究員（DC）》応募チャレンジセミナーを実施している。本年は COVID-19 の感染拡大防止を図り、オンライン講演形式での開催となった。

所長挨拶：河野貴美子（早稲田大学総合人文科学研究センター所長）

DC 応募に際しての諸注意：姫野正晴（早稲田大学文学学術院事務所）

DC 経験者からのアドバイス：袁甲幸（早稲田大学総合人文科学研究センター助手）

申請書のポイント紹介①：哲学コース助手 繁田歩（専門「哲学」令和2年度 DC2 採用者）

申請書のポイント紹介②：文学研究科博士後期課程 関佳奈（専門「言語教育心理」令和4年度 DC2 採用者）

パネルディスカッション：早崎綾・袁甲幸・繁田歩・関佳奈

参加者：文学研究科在籍者 45 名

ランチセミナー

日時：4月27日（水）、5月11日（水）

場所：33号館3階第1会議室／オンライン併用

「ランチセミナー」では毎年、当センターが目指す人文学領域における活発な横断研究の促進を図るため、当該年度に文学学術院に着任した教授、准教授、専任講師らに研究紹介を頂いている。本年度は全2回のセミナーを設けた。

司会：ライアン・スティーブン（早稲田大学総合人文科学研究センター副所長）

第1回登壇者（4月27日）

はじめに：嶋崎尚子（早稲田大学文学学術院長）

藤野裕子 教授

笹山尚子 准教授

おわりに：河野貴美子（早稲田大学総合人文科学研究センター所長）

第2回登壇者（5月11日）

久保田治助 准教授「日本における高齢社会の変遷と老いの学び」

坪井秀人 教授「文化史研究と文学研究」

おわりに：河野貴美子（早稲田大学総合人文科学研究センター所長）

2022年度 総合人文科学研究センター年次フォーラム

第14回東アジア人文学フォーラム「ポストコロナ期における東アジア人文学—発展と展望—」

日時：2022年12月10日（土）、11日（日）

会場：Zoom オンライン開催

【主催】早稲田大学 総合人文科学研究センター

【後援】文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）」

漢陽大学校、南開大学、国立台湾大学、清華大学、香港理工大学および早稲田大学文学学術院の協定により

毎年開催する「東アジア人文学フォーラム」は第14回を迎えた。今年度は当学が主管大学となったため、総合人文科学研究センターが主催する年次フォーラムとして開催した。

◇12月10日(土) Facilitator: 山本聡美

〔開会式〕

開会挨拶: 高松寿夫(早稲田大学)

各大学紹介/各校挨拶

《基調講演》

Moderator: 山本聡美(早稲田大学)

- (1) 夏莹(清华大学)「欲望政治経済学批判: 当代資本邏輯研究」
- (2) 李成市(早稲田大学)「新羅・渤海接境地域の交渉実態をめぐって: 歴史地理研究におけるGISの活用」

《第1セッション》テーマ: 『地域と歴史 Region and History』

Moderator: 冉启斌(南开大学)

- (1) 小二田章(早稲田大学)「東アジア地方史誌比較研究の形成」
- (2) 刘晓峰(清华大学)「古代东亚の赤山信仰」
- (3) 盧慧紋(國立臺灣大學)「懷素〈藏真律公帖〉的摹刻與北宋士大夫對關中地區史跡的保存及形象塑造」
- (4) 王笛(澳門大學)“Public Sphere and Urban Management in China: A Historical Revisit”

《第2セッション》テーマ: 『思想と哲学 Thought and Philosophy』

Moderator: 柳成浩(漢陽大學校)

- (1) 李賢中(國立臺灣大學)「中國哲學的人文精神與思維方法」
- (2) 赵建成(南开大学)「论李善《文选注》引书的文献来源问题: 以其所引《论语》汉魏古注为例」
- (3) 河野貴美子(早稲田大学)「雑誌『禹貢』を通して考えるポストコロナ期の人文学」
- (4) MATHEWS, Peter D.(漢陽大學校)“Learning From Giorgio Agamben’s Response to the COVID-19 Pandemic”
- (5) 尹誠浩(漢陽大學校)「‘잔인한 낙관주의’가 만들어내는 위기의 일상성: 프레카리아트를 중심으로」

《第3セッション》テーマ: 『新たな世界の探求 Exploring New Worlds』

Moderator: 朱秋而(國立臺灣大學)

- (1) TURNBULL, Margo(香港理工大學)“Leveraging ‘Uncertainty’ During a Global Health Crisis: An Analysis of the Strategic Deployment of Hedging in Government Press Conferences in Early 2020”
- (2) 吴霞(清华大学)“Reported Speeches in News Discourse”
- (3) MOODY, Andrew(澳門大學)“Language Policy and Planning in Macau: Effects and Complications Arising From the COVID-19 Pandemic”

◇12月11日(日) Facilitator: 小野正嗣(早稲田大学)

《第4セッション》テーマ: 『移動する人、動く物、伝播する情報 Moving People, Moving Objects, Propagating Information』

Moderator: 倪玉平(清华大学)

- (1) 吴若明(南开大学)「萨克森的东亚陶瓷与麦森瓷器: 瓜与洋葱的图像流动」
- (2) 洪瑟君(國立臺灣大學)「金子光晴的儿童文学作品研究」
- (3) FENG, William(香港理工大學)“Beyond Reporting: The Communicative Functions of Social Media News During the COVID-19 Pandemic”
- (4) 葛西周(早稲田大学)「ポスト・ヒューマン時代の音楽体験におけるモビリティとライブ性」
- (5) 李都欽(漢陽大學校)“Six Global Crises and Alternatives in the Post-COVID-19 Era: Beyond Agamben and Žižek”

《第5セッション》テーマ: 『データ科学としての言語・文学 Language and Literature as Data Science』

Moderator: LI, Ping(香港理工大學)

- (1) 李飞跃 (清华大学) 「唐诗格律的统计分析及问题」
- (2) 冉启斌 (南开大学) 「内部差异与外部关联：中国民族语言 592 个语档的相似度计算」
- (3) 楊雅儒 (國立臺灣大學) 「困居／歸返／出走／介入：論 2020 年臺灣出版的武漢封城書寫」
- (4) CHERSONI, Emmanuele (香港理工大學) “Natural Language Processing for Medical Information Extraction From Social Media”
- (5) LIU, Ming (香港理工大學) “Communicating the Safety and Efficacy of COVID-19 Vaccines in Hong Kong: A Corpus-Assisted Discourse Study”

《閉幕式》

主催者挨拶：李成市 (早稲田大学・元理事)

次回主催校挨拶：冉启斌 (南开大学)

英語論文執筆講座

英語論文ライティング講座 (入門編)

日時：2022 年 11 月 2 日 (水) 14:45～16:15

形式：対面 (32 号館 1 階 128 教室)

講師：Peter Chin (早稲田大学アカデミックソリューション講師)

使用言語：英語

参加者：早稲田大学大学院文学研究科在籍者 13 名

英語論文ライティング・ラウンドテーブル

日時：2023 年 3 月 6 日 (月) 11:00～12:00

形式：Zoom 開催

パネリスト：小島直子 (立命館大学政策科学部准教授)

山崎泉氏 (学習院大学国際社会科学部准教授)

司会・進行：ライアン・スティーブン (早稲田大学文学学術院教授・同総合人文科学研究センター副所長)

使用言語：英語

参加者：文学研究科在籍者 6 名

早稲田大学比較文学研究室

日本比較文学会 第 60 会 東京支部大会

日時：2022 年 10 月 15 日 (土)

場所：コロナ禍対応のため全面オンライン開催。

※同支部大会第 60 回の記念大会。プログラムに「早稲田大学文学学術院を基点とするオンライン開催」と記載

[A 室]

1. 報告者：邱月 (上智大学大学院)

題目：日中近代文学作品における珈琲文化 (空間) の表象をめぐって

司会：井上健 (東京大学名誉教授)

2. 報告者：李範根 (東京大学大学院)

題目：1950 年代日韓写真における「リアリズム」再考—土門拳と林應植の写真活動を中心に—

司会：堀江秀史 (静岡大学)

3. 報告者：中村麻衣子 (東京都立大学)

題目：〈悲劇の英雄〉を乗り越えて—ロジャー・ケイメント像の変遷—

司会：野谷文昭 (東京大学名誉教授)

4. 報告者：福島昇（日本大学元教授）
題目：モリスン『スーラ』におけるシェイクスピア『リア王』表象の変遷—道化とスーラの関係を中心に—

司会：内山加奈枝（日本女子大学）

[B室]

1. 報告者：木内英実（東京都市大学）
題目：中勘助の戦中・戦後の詩業におけるインド叙事詩「マハーバーラタ」の影響—「涼しき蔭」及び「山がつとはしばみ」を中心に—
司会：佐藤宗子（千葉大学名誉教授）
2. 報告者：チャラコヴァ・マリア（東京外国語大学大学院）
題目：ドストエフスキー『未成年』と漱石『三四郎』における「疎外感」の問題
司会：源貴志（早稲田大学教授）
3. 報告者：福島君子（上智大学大学院）
題目：漱石の「投出語法」とロツツェ、リーの「感情移入論」—人間の感情と心理の本質をめぐって—
司会：庄子ひとみ（順天堂大学）

[特別講演]

「言論百年の礎—森鷗外と岩村透」／今橋映子（東京大学）

[ラウンドテーブル]

司会：古田島洋介（明星大学）

「戯曲のことばにおける実験」／大西由紀（大東文化大学）

「鷗外漢詩の中国「素材」」／張偉雄（札幌大学）

「森鷗外と記憶術」／古田島洋介（明星大学）

日本比較文学会東京支部 例会

[4月例会] 2022年4月16日（土）

講師：西原大輔（東京外国語大学）

題目：能《白楽天》《放生川》《呉服》《唐船》を読む—室町時代の日明外交と能狂言—

司会：劉岸偉（東京工業大学）

[5月例会] 2022年5月21日（土）

講師：宮田沙織（東京大学特任研究員）

題目：近代日本における小品ジャンルの生成—水野葉舟と青年投書雑誌『文庫』を中心に—

司会：堀啓子（東海大学）

[7月例会] 2022年7月16日（土）

講師：松尾梨沙（日本学術振興会特別研究員）

題目：ショパンによる「幻想」—文学作品との関係をめぐる—考察—

司会：近藤圭一（聖徳大学）

[9月例会] 2022年9月17日（土）

講師：片岡真伊（東京大学東アジア藝文書院特任研究員）

題目：川端康成『名人』の英訳・受容における変容と伝播の諸相をめぐって

司会：前島志保（東京大学）

[11月例会] 2022年11月19日（土）

講師：町田樹（國學院大學）

題目：フィギュアスケートを対象とする比較芸術学的研究の可能性—1970-80年代ジョン・カリーとバレエ界の協働創作を事例として—

司会：佐々木悠介（東洋大学）

[12月例会] 2022年12月17日（土）※上海同济大学と結んでのオンライン開催

講師：林茜茜（同济大学※上海）

題目：戦後における小田嶽夫の中国表象

司会：井上健（東京大学名誉教授）

[1月例会] 2023年1月21日（土）

※早稲田大学文学学術院224教室を会場としてのハイフレックス開催

特別講演：「こゝろ」はどのように読まれてきたか—漱石と比較文学比較文化—

講師：斉藤恵子（大妻女子大学名誉教授）

司会：ソートン不破直子（日本女子大学名誉教授）

[3月例会] 2023年3月18日（土）

講師：坂東真理子（日本大学非常勤）

題目：戦後フランス文学における記憶の断片のモチーフをめぐって—パトリック・モディアノの小説作品を中心に—

司会：三枝大修（成城大学）

『比較文学年誌』第59号の編集・発行（2022年3月22日発行）

トランスナショナル社会と日本文化

昨年度も実施を予定していた「ルイス・フロイス、チャレンジワークショップ」を、出入国が必ずしも自由ではなかった環境に加え、代表者の用務繁多により見送らざるをえなくなった。可能であれば来年度における実施を検討したい。

これに代えて年度末に天正遣欧使節関係史料を題材とした小規模なオンライン研究会の実施を検討したが、実施にはいたらなかった。

昨年度に5年の設置期間が終了し、新たに5年の活動継続が認められた初年度ではあったが、上記の状況に鑑みて、現代表のもとでは活動継続が困難であると判断し、来年度は鶴見太郎先生への代表交代をお認めいただいた。新たな体制のもとで活動を継続していきたい。

グローバル化社会における多元文化の構築

早稲田大学多元文化学会 2022年度春期大会（共催）

「聖徳太子1400年遠忌記念 聖徳太子の実像と伝承」

日時：2022年7月9日（土）

場所：大隈タワー地下多目的教室（Zoomオンライン併用）

司会：河野貴美子

講演者：石井公成（駒澤大学名誉教授）

「文献と金石史料から浮かびあがる聖徳太子の人間像」

阿部泰郎（龍谷大学教授）

「聖徳太子と達磨の再誕邂逅伝承再考—光定『伝述一心戒文』が創る仏教神話の系譜—」

吉原浩人

「磯長聖徳太子廟と「廟幅傷」をめぐる言説」

早稲田大学多元文化学会 2022年度秋期大会（共催）

日時：2022年10月29日（土）

場所：Zoomオンライン会議（会議使用言語：日本語および英語）

司会・コーディネーター：小二田章・藤本庸裕

研究発表：王蒼媛（早稲田大学大学院文学研究科リサーチフェロー）

「無住における宋代禅宗典籍の受容」

講演：リーブズ・クリストファー

“Says Who? Some Thoughts about Studying East Asian Literature through English Translations”

『多元文化』第12号（2023年2月刊行）。

※上記シンポジウム・研究発表会・講演会に関する論文

イメージ文化史

シンポジウム「〈聖地巡礼〉メディアを横断するフィクション」

日時：2023年1月21日（土）13:30～18:00

場所：早稲田大学戸山キャンパス36号館382教室

Zhang Nii（ヴァージニア工科大学）

「場所の発明、物語の旅：現代資本主義下のフィクショナルリティ再考」

石橋正孝（立教大学）

「シャーロキアンたちの聖地巡礼」

橋本一径（早稲田大学）

「写真の中の場所は本当に存在するのか？：「再撮影」の歴史を通して」

司会：久保昭博（関西学院大学）

通訳：Anna Bordilovskaya（東京大学）

東アジアの人文知

【国際フォーラム】

第14回国際フォーラム「越境する人文知」

共催：中国現代文化研究所との共催

日時：2022年7月27日（水）

場所：Zoom開催

第15回国際フォーラム「越境する人文知」

共催：中国現代文化研究所との共催

日時：2023年2月2日（木）

場所：早稲田大学戸山キャンパス33号館第11会議室（ハイフレックス方式）

【若手研究者の育成】

第5回ワークショップ

共催：上海大学・南開大学・関西大学・東京大学との共催

日時：2023年3月18日（土）・3月19日（日）

場所：Zoom開催

行動・社会・文化に関する多角的アプローチ

2022年度には、8月26日に心理学セミナーシリーズ（8/26）を開催して、韓国脳科学研究所（KBRI）の小島哲氏を招聘して、運動シークエンスの誤差制御を達成する脳基盤に関する最新研究を紹介していただき、メンバー間で新しい知見を共有した。本講演は、部門メンバーのみならず、学生へも刺激となったようで、参

加した学生からは、大学院進学についての相談も受け付けている。

しかし、これ以後は、夏頃からのコロナ感染の急速な再拡大により、本研究部門でも、部門メンバーと学生の安全を重視して、予定されていた研究会の開催を見送り、最小限に活動を行うことを余儀なくされた。来年度はコロナ感染の縮小が期待されているため、多様な研究分野から専門家を招き、メンバー間の交流を促進して、研究・教育の推進を目指したい。

現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究

今年度は研究会を3回開催し、東日本大震災後の被災地での活動について、講演・座談会、動画配信を1回開催した。

【研究会】

第1回 報告者 野坂真氏（文学学術院講師（任期付）研究員）

テーマ「東日本大震災遺族の震災伝承による心の復興に関する研究—岩手県大槌町の震災遺族へのインタビューを中心として—」

2022年7月3日（日）10:00～12:00

（概要）日本大震災の津波被災地では、発災から10年以上が経ち、モノの復興は完了しつつあるように見える。しかし、災後を生きる人々が心穏やかに暮らしていける環境づくりなど「心の復興」は今でも重要な課題であり続けている。同時に、次に起こるかも知れない大災害に備え、実際の震災の経験に基づく教訓を次世代や他の地域に継承する「震災伝承」は、日本社会全体における重要な課題となっている。震災遺族のように深刻な経験をした人々にとって、震災後の経験や気持ちを表現することは、大きな心の負担をとまなうことも多い。しかし、1万8千人以上が犠牲となった東日本大震災の教訓は、犠牲者に関わる経験なしに考えることはできない。このような両立が難しい、だが両立することが重要な2つの課題にいかに対応するか。

そこで、津波で住民の1割弱が犠牲となった岩手県大槌町において、遺族が自身の経験や気持ちをいかに表現しときに伝えようとしているか、遺族にとって表現するという行為と心の復興とにどのような相互作用があるか、報告者が約10年にわたり続けてきた遺族へのインタビューや現地での実践から社会的に検討した。

第2回 報告者 近藤牧子氏（早稲田大学非常勤講師、招聘研究員）

テーマ「市民社会による政策提言活動と行政組織との関係構築—第7回ユネスコ国際成人教育会議プロセスを事例に—」

2022年8月4日（木）13:00～15:00 オンライン開催

近藤さんが、本年6月にモロッコで開かれた国際成人教育会議の第7回会議（CONFINTEA VII）に出席された。地球規模の危機に対応する成人の学習についてのホットな議論を報告していただいた。

（概要）1947年より、ユネスコの主導にて開催されてきた国際成人教育会議ですが、近年、気候変動をはじめとする様々な地球的課題に関わる国際会議では、市民社会（Civil Society）があらゆる会議プロセスにコミットし、影響力を発揮してきている。当該会議を迎えるにあたり、日本でも成人教育に関わる市民社会が、成人教育行政部局である文部科学省教育総合政策局への政策提言活動を行ってきた。市民社会組織、政策提言、行政組織と、いずれも多様な次元や規模をもつ言葉ではあるが、本報告では、この会議プロセスにおいて、いかに市民社会がコミットしてきたのかという経緯と成果を報告した。

第3回 報告者 川副早央里氏（東洋大学助教、招聘研究員）

テーマ：「空間なきコミュニティの復興と広域自治会の取り組み—富岡町の事例から—」

2023年2月22日（水）10:00～12:00 オンライン開催

（概要）福島第一原発事故の発生から12年。被災地では帰還政策によって除染作業やインフラ整備が進められている一方で、住民の帰還はなかなか進まない状況がある。空間なきコミュニティの復興とは何かを検討

するために、本報告では、避難した住民が避難先で設立した「広域自治会」の活動に着目し、避難生活および生活再建において住民が抱える課題、その課題解決にむけた対応とその成果、そしてそれらの住民活動が町全体の復興において果たした役割について考察した。

【講演・座談会・動画配信】

テーマ：わすれな草：東日本大震災遺族の記憶を記録し伝えることについて《当事者》と語り合う

* 講演会・座談会 2022年11月26日（土）13:30～16:00

・ 基調講演：「刻まれる『生きた証』～震災遺族の取材から」

藤原規衣（元岩手朝日テレビ記者・アナウンサー）

* 震災発生時に岩手朝日テレビ記者・アナウンサーで、その後、岩手県沿岸部での取材を行った。被災者とりわけ震災遺族への取材の経験から震災の記憶を記録し伝える重要性と同時に、その課題について講演していただいた。

・ 座談会：藤原規衣氏のほか、大槌町に住んでいた家族が津波の犠牲となった倉堀康氏、野坂紀子氏を中心に、安渡公民館での参加者やオンラインを介した参加者も加わり、「震災をいかに伝え、震災から癒されるか？」というテーマで意見交換を行った。

* 動画配信

日時：2022年11月27日（日）12:00－12月11日（日）24:00（JST）

配信場所：Youtube（申込者のみに配信）

内容：大槌町の東日本大震災遺族による聞き語り記録に関する動画4本、および上記講演・座談会の録画（計5本の動画）

知の蓄積と活用にむけた方法論的研究

【アーカイブズを活用した研究会】

1. 部門共催研究会

・ 「1950年代の常磐炭礦における受胎調節指導」（報告者：豊田真穂・嶋崎尚子）

・ 「現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究」部門・「知の蓄積と活用にむけた方法論的研究」部門の共催（2022年5月26日オンライン開催）

・ 成果：豊田・嶋崎（2022）

2. 芦別研究会（5回）

・ 芦別市星の降る里百年記念館資料アーカイブズを活用した産炭地芦別に関する研究会

（2022年5月22日、8月18日、2023年1月7日、2月8日、3月23日（予定）：いずれもZoomで開催）

・ 成果：嶋崎尚子・西城戸誠編『芦別——〈炭鉱〉と〈まち〉の社会史』（仮）2023年秋、寿郎社より刊行予定

3. 樺太研究会（3回）

・ 樺太引揚に関する文書資料アーカイブズを活用した引揚者の炭鉱定着に関する研究会

（2022年7月28日、12月7日、2023年1月30日：いずれもZoomで開催）

・ 成果：嶋崎ほか（2023）

4. 産業・地域・家族研究会（5回）

・ パーソナルドキュメントを活用した産業・地域・家族に関する研究会

（2022年5月26日Zoom、7月26日対面、9月30日対面、2023年1月28日対面、3月24日対面（予定））

・ 成果：2025年度に論文集を刊行予定

【個別アーカイブズとの連携事業】

1. 芦別市星の降る里百年記念館との連携事業

- ・三井芦別炭鉱採用関係資料のアーカイビング作業（2022年4月～2023年2月実施）

2. 夕張市教育委員会・夕張地域史研究資料調査室との連携事業

- ・「ゆうばり歴史・教育資料室所蔵資料」の調査ならびに保存・活用（2021年度からの継続プロジェクト）
- ・嶋崎研究室と夕張市教育委員会とで「ゆうばり歴史・教育資料室所蔵資料の調査についての覚書」を結び、人文研招聘研究員笠原良太氏を中心に、資料アーカイビング作業を行った（2022年5月、9月、10月）。

3. 三池炭鉱（関連）社宅史研究会との連携事業

- ・大牟田市での調査など（2022年7月、10月、3月）

【出版】

1. 2021年度研究会報告

- ・『RILAS JOURNAL』10号 特集4 第13回研究会記録「ライフコース論×環境社会学」
廣本由香「『つながりの戦後史』を読む」
笠原良太「『鳥栖のつむぎ』を読む」
西城戸誠・嶋崎尚子・大倉季久「コメント・ディスカッション」

2. 2022年度研究会報告論文

- ・豊田真穂・嶋崎尚子 2022「『尚道遠し』：1950年代常磐炭礦における受胎調節指導とその成果」（『RILAS JOURNAL』10号投稿論文、p.95-107）

3. 2022年度研究会成果リサーチ・ペーパー

- ・嶋崎尚子・笠原良太・坂田勝彦・平井健文 2023『樺太引揚者の炭鉱への移動プロセス—その構造と経験に関する実証的研究』（JAFCOF 樺太研究会リサーチ・ペーパー Vol.1）

【研修会主催】

1. 第10回全国石炭産業関連博物館等研修交流会（オンライン／東京）

- ・2023年2月4日・5日に東京（早稲田）を事務局に、全国産炭地拠点（台湾を含む）をむすんで各産炭地での活動、研究報告を実施した。

社会の複雑化・階層化の史的パースペクティブ

【出版・論文】

- ・谷川章雄 2022「江戸の大名屋敷の狐」『考古学ジャーナル』769
- ・谷川章雄 2022「総括—俊朝寺をめぐる問題」『俊朝寺寺域遺跡発掘調査報告書』国際文化財株式会社
- ・谷川章雄 2023「『万控帳』にみる生活史」『万控帳調査報告書』第Ⅱ巻 千代田区教育委員会
- ・小泉龍人 2022「古代メソポタミアの都市景観—古代都市における広場のあり方について」中
- ・村陽一他（編）『変容するビルディングタイプ—21.5世紀の社会と空間のデザイン』誠文堂新光社、pp.115-121。
- ・城倉正祥 2023「宮城正門の象徴性—都城門の国際比較から—」『東都絹研 News (No.6)』
- ・城倉正祥 2022「群馬県太田天神山古墳の測量・GPR調査」『東都絹研 News (No.2)』
- ・城倉正祥 2022「千葉県山武郡芝山町高田2号墳第5次発掘調査」『東都絹研 News (No.1) 1-1』
- ・城倉正祥ほか 2023「群馬県藤岡市白石稲荷山古墳の測量・GPR調査」早稲田大学東アジア・シルクロード考古学研究所
- ・城倉正祥ほか 2022「埼玉県行田市埼玉愛宕山古墳の測量・GPR調査」早稲田大学東アジア・シルクロー

ド考古学研究所

- ・城倉正祥・山本孝文・青木敬・寺前直人・浜田晋介 2022 『考古学概論—初学者のための基礎理論』 ミネルヴァ書房
- ・高橋龍三郎 2023 「総論 サケ・マス論研究の現在」『考古学ジャーナル』:「縄文「サケ・マス論」研究の最前線」特集号 2023年4月号 ニューサイエンス社
- ・高橋龍三郎 2023 「儀礼総論—通過儀礼とトーテミズムによる構造変動—」『別冊季刊考古学』40号
- ・高橋龍三郎 2023 「縄文時代における動物の供犠と埋葬について」『モノ・構造・社会の考古学—今福利恵博士追悼論文集—』今福利恵博士追悼論文集刊行委員会
- ・高橋龍三郎・横山未来・関根有一朗・岡田響美・飯島史尊 2023 「第7次加曾利貝塚3次元測量・地中レーダー探査 (GPR) 調査概報」『早稲田大学文学研究科紀要』第69輯
- ・高橋龍三郎・横山未来・川部栞里他 11名 2022 「第6次加曾利貝塚3次元測量・地中レーダー探査 (GPR) 調査概報」『早稲田大学文学研究科紀要』68輯
- ・高橋龍三郎 (編著) 2022 『科学で読みとく縄文社会』同成社
- ・Yamazaki, S. 2022 Tradition and Innovation in the Royal Object Ritual During the Middle Kingdom. In Kawai, N. and Davies, B. G. (eds.) The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of JiroKondo, 509-524.
- ・山崎世理愛 2022 「エジプト中王国時代における器物奉獻儀礼の変容とその社会的背景」『オリエント』65/1: 1-17.
- ・Takenouchi, K. 2022 Innovation in Offering Lists and the ‘Ritualization’ of Funerary Vessels: Connection between Vessel Assemblages and Offering Rituals in the Third Dynasty, in Nozomu Kawai & Benedict G. Davies (eds), The Star Who Appears in Thebes: Studies in Honour of Jiro Kondo. Abercromby Press. p.475-489.
- ・長崎潤一・高倉純ほか 2023 「北海道蘭越町立川1遺跡第1次調査概報」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第68輯 p.547-558.

【学会・研究会・シンポジウム等】

- ・小泉龍人ほか 2022 「銅石器時代土器のPGA分析—北メソポタミア周辺の産地識別の試み」日本西アジア考古学会第27回総会・大会 (帝京大学)、2022年7月10日
- ・小泉龍人 2022 「メソポタミアの河川と水利」『国際シンポジウム メソポタミアの水と人—文化遺産から暮らしを見直す』(独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所・特定非営利活動法人 メソポタミア考古学教育研究所)、2022年10月22日
- ・谷川章雄 2022 「東京都港区高輪築堤跡の調査と保存をめぐる問題」『セッション7 近現代遺跡の調査と保存・活用』日本考古学協会第88回総会 2022年5月29日
- ・城倉正祥 2022 「唐代都城の空間構造と展開—以被发掘的都城門为中心—」北京论坛《文明的和谐与共同繁荣》分论坛《中国古代都城与东亚城市的发展》2022年12月10日北京大学、北京市教育委员会、韩国高等教育財団聯合主办
- ・城倉正祥 2022 「古墳の三次元測量・GPR調査の方法と実践」令和4年栃木県考古学大会 2022年11月27日
- ・城倉正祥 2022 「龍角寺の調査研究史とⅡ期調査の成果」早稲田文化芸術週間 2022 下総龍角寺展関連シンポジウム 『下総龍角寺再考—最新の発掘調査から—』2022年10月16日
- ・城倉正祥 2022 「唐代都城の空間構造とその展開—都城門の分析を中心に—」中央大学人文科学研究所 公開研究会 2022年6月1日
- ・高橋龍三郎・池谷信之・太田博樹・脇山由基・米田穰・藤田尚・長山明弘 2022 「セッション2「縄文社会変動の深層を探る」」日本考古学協会第88回総会 (早稲田大学開催) 2022年5月29日
- ・Yamazaki, S. 2022 “Repeating the ritual under the ground: Performance of the royal object ritual in the Middle

Kingdom,” the University of Alcalá, The MORTEXVAR Conference. 2022年9月14－16日（オンライン開催）

- ・山崎世理愛 2022「エジプト中王国時代末期の葬送儀礼にみられる伝統の変化とその継承」日本オリエント学会第64回年次大会、2022年10月30日、於東京大学駒場キャンパス
- ・竹野内恵太 2022「国家形成期の地域社会における在地系譜集団の解体と新興権威の編入—エジプト原・初期王朝時代のアブ・ロアシュ遺跡とタルカン遺跡の墓地構成および景観からみた集団構成の変容—」日本オリエント学会第64回年次大会。
- ・Takenouchi, K. 2022 Hierarchical Distribution and Political Economy of the Stone Vessel in the Abu Rawash Community under the Reign of Den. Origins 7: The 7th International Conference on Predynastic and Early Dynastic Egypt. (ポスター発表)
- ・長崎潤一・岩瀬彬・佐野勝宏・山田昌久・海部陽介 2022「後期旧石器時代前半期刃部磨製石斧の新たな集成」日本旧石器学会第20回大会研究発表 2022年6月5日（ポスター発表）

【講演会】

- ・城倉正祥 2023「龍角寺出土埴仏の意義」栄町文化財講演会 2023年1月22日
- ・城倉正祥 2022「太田天神山古墳の三次元測量・地中レーダー探査とその成果」群馬県太田市 歴史講演会 2022年7月31日
- ・高橋龍三郎 2023「縄文時代の社会を知るにはどうすればいいのか—合理的なモデルとストーリーの構築—」神奈川県文化財保護行政担当者研修会 神奈川県埋蔵文化財センター主宰（神奈川県立歴史博物館） 2023年1月13日（招聘講演）
- ・高橋龍三郎 2022「加曽利貝塚調査の歴史とこれからの検討」早稲田大学考古学会公開講演会 2022年4月30日 早稲田大学
- ・高橋龍三郎 2022「縄文時代の中部高地における祭祀儀礼の性格について」『諏訪学第3回講演会』2022年8月16日（招聘講演）
- ・高橋龍三郎 2023「縄文中期石棒はなぜ巨大化したのか」佐久考古学会・佐久穂町教育員会主宰講演会 2023年3月19日（招聘講演）
- ・高橋龍三郎 2023「縄文時代の集落」『令和4年度企画展関連講座・ふじみ考古学教室』埼玉県富士見市水子貝塚資料館 2023年3月21日（招聘講演）

角田柳作国際日本学研究所

【研究会活動】

『於于野譚』研究会

- ・2022年4月22日、5月20日、6月24日、8月26日、9月30日、10月21日、11月18日、12月9日、2022年1月20日、2月24日、3月31日（ハイブリッドにて開催）
- ・朝鮮の「野談」資料を輪読する研究会を授業期間中に毎月一回開催。

【開催したシンポジウム・講演会・ワークショップなど】

高等研究所「人新世と人文科学：Humanities in the Anthropocene」セミナーシリーズ公開講演会（2022年度は全5回）

開催方法：オンライン（Zoom）

主催：早稲田大学 高等研究所

共催：スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点、総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所、早稲田大学 美術史学会

助成：公益財団法人三菱財団 2022年度助成（人文科学：202020034「中世日本の環境と美術」）、科研費 基

盤 C 「高次視覚野発達による自閉症のサブグループ化と認知行動特性・初期兆候の探索」

第4回「個人と社会の相互作用 人新世と人文学における認知神経科学の射程」

日時：2022年5月28日（土）10:00～12:00

講演者：原田宗子（名古屋大学大学院情報学研究科・特任講師）「文化神経科学的アプローチ：脳から見たヒトの価値観の多様性」、岡本悠子（早稲田大学高等研究所・准教授）「自閉スペクトラム症から考える脳機能発達の個人差」

司会：山本聡美教授

第5回「地域づくりの現場に立ち現れる妖怪」

日時：2022年7月23日（土）10:00～12:00

講演者：高田知紀（兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授）「妖怪と防災」

司会：山本聡美教授

第6回「人新世に響く音——環境変動の歴史における楽器製作」

日時：2022年10月1日（土）10:00～12:00

講演者：葛西周（早稲田大学高等研究所講師）「音・音楽研究から人新生を問う——エコミュージコロジーにおける物質論的転回」、前原恵美（東京文化財研究所無形文化財研究室長）「[原材料—用具—伝統芸能]をつなぐ「保存技術」」

司会：山本聡美教授

第7回「Analyzing Archipelagos in the Work of Ishimure Michiko」

日時：2022年11月5日（土）10:00～12:00

講演者：Christine Marran（Professor of Japanese Literature and Cultural Studies at the University of Minnesota）

司会：Dematagoda Udith（早稲田大学高等研究所 講師）

第8回「産業政策史からの視点—高度成長期後半の保守政治体制下における公害対策」

日時：2022年12月17日（土）10:00～12:00

講演者：長井景太郎（早稲田大学政治経済学術院助手）

司会：山本聡美教授

クリスティーナ・ラフィン氏講演会

「自然、文学、気候変動—「危機感」からではなく自然から学ぶ日本文学 Teaching about/with/through Nature and Japanese literature」

開催方法：ハイブリッド

日時：2022年6月1日（水）16:30～18:00

主催：SGU 国際日本学拠点

共催：角田柳作記念国際日本学研究所、国際日本学コース

講演者：クリスティーナ・ラフィン氏（ブリティッシュコロンビア大学准教授、早稲田大学訪問准教授）

コメント：山本聡美教授

司会：河野貴美子教授

講演会「The Past, Present, and Future of Japanese Studies : 日本研究の過去、現在そして未来へ Insights from the Inter-University Center for Japanese Language Studies (IUC)」

開催方法：ハイブリッド

日時：2022年7月6日（水）16:30～18:00

主催：スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点

共催：国際文学館、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

後援：柳井正イニシアティブ グローバル・ジャパン・ヒューマニティーズ・プロジェクト

Opening Remarks：十重田裕一教授、国際文学館館長

講演者：インドラ リービ早稲田大学訪問准教授、スタンフォード大学准教授

対談：ロバート・キャンベル早稲田大学特命教授、国際文学館顧問

Closing Remarks：デイヴィッド ルーリー 早稲田大学・コロンビア大学准教授

Tatiana Linkhoeva 先生講演会：“Revolution Goes East: Imperial Japan and Soviet Communism”

開催方法：対面

日時：2022年7月14日（木）16:30～18:00

主催：早稲田大学国際日本学コース

共催：スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

講演者：Tatiana Linkhoeva (New York University, Assistant Professor)

Christina Yi 先生講演会：“Intersecting Diasporic Literatures: *On Jini's Puzzle and Pachinko*”

開催方法：対面

日時：2022年7月21日（木）16:30～18:00

主催：早稲田大学国際日本学コース

共催：スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

講演者：Christina Yi (University of British Columbia, Associate Professor)

Dr. Kevin Michael Smith 講演「The Sound of Sight: Vision and Dissonance in Japanese Futurist Poetry/ 目の響：日本未来派の詩における視覚と不協和音」

開催方法：ハイブリッド

日時：2022年7月22日（金）15:00～17:00

主催：スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点

共催：早稲田大学文学学術院、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

講演者：Kevin Michael Smith 氏 (University of California, Berkeley 准教授)

講演者紹介：鳥羽耕史教授

国際ワークショップ 第3回研究会・ワークショップ「世界の中の和歌」—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—

開催方法：ハイブリッド

日時：2022年9月3日（土）10:00～17:00

主催：日本古典文学多言語翻訳研究会、早稲田大学高等研究所、スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所・「創作と翻訳の超領域的研究」

部門

登壇者：イム・チャンス、金中、黄夢鶴、イーブン美奈子、カレル・フィアラ、アダム・ベドゥナルチク、土田久美子、カーロイ・オルショヤ、フィットレル・アーロン、エドアルド・ジェルリーニ、高木香世子、飯塚ひろみ、ローレン・ウォーラー

Matthew Fraleigh 先生講演会「戦後日本の漢詩雑誌：『雅友』を中心に Sinitic Poetry Journals in Postwar Japan: Exploring *Gayū*」

開催方法：ハイブリッド

日時：2022年11月8日（火）16:30～18:00

主催：スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点

共催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

講演者：Matthew Fraleigh（ブランダイス大学）

第3回中日古典学ワークショップ

開催方法：ハイブリッド

日時：2022年11月12日（土）9:50～17:25、13日（日）9:30～12:45

主催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所、スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点、北京大学人文学部、北京大学中国語文学系

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

日本学術振興会科学研究費助成事業「グローバルな視野からみる和漢の「文」と日本古典籍をめぐる学術文化史研究」（20K00303）基盤研究（C）（一般）

登壇者：顧永新、程蘇東、川尻秋生、田中史生、胡敕瑞、高松寿夫、李林芳、孫玉文、笹原宏之、張学謙、河野貴美子、劉玉才、杜曉勤、吉原浩人、程夢櫻

青年論壇登壇者：伊丹、王佳琪、田雨鑫、崔鵬偉、楊思思、山本早紀、鄧子翔、王孫涵之、大谷万由子、長谷川隆一、高樹偉、張鶴天

国際ワークショップ「宋代の仏教信仰と日中文化交流 Buddhist Faith and Japan-China Cultural Exchange in the Song Dynasty Era」

開催方法：ハイブリッド

日時：2022年12月22日（木）14:00～17:30

主催：スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点、早稲田大学総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所、寧波大学浙東文化研究院、寧波大学人文学与伝媒学院

共催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所、早稲田大学総合研究機構奈良文化研究所

報告者：尚永琪（寧波大学仏教文化研究センター主任）「優填王旃檀瑞像の造像の源流について」、龔纓晏（寧波大学人文学与伝媒学院特聘院長）「恵暎、紹曇と「輿地図」、田中史生（早稲田大学教授）「薩摩塔の信仰の背景を探る—薩摩塔と中国石塔の銘文の検討から—」

講演会「国際日本研究の足跡をたどる試み—人間 F. ホーレーと「宝玲文庫」—」

開催方法：ハイブリッド

日時：2023年1月16日（月）13:00～14:30

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

共催：スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点

講演者：横山學「人間 F・ホーレーと日本研究」、藤原秀之「「宝玲文庫」とは何だったのか—その全体像と

復元の可能性について」

コメント：ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）

司会：李成市教授

第2回国際ワークショップ「東アジア古典研究のグローバル化を目指して—古典翻訳の現在と未来」 SECOND INTERNATIONAL WORKSHOP: How to Globalize Premodern East Asian Studies? The Present and Future of the Translation of Classical Literatures

開催方法：対面（発表者のみ一部ハイブリッド）

日時：2023年3月1日（水）9:50～12:40

主催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所、スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点

共催：MIT School of Humanities, Arts, and Social Sciences（マサチューセッツ工科大学 社会科学芸術人文学部）早稲田大学総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C）20K00303）

登壇者：Wiebke Denecke、蔣義喬、徐夢周、曾堰杰、楽曲、沈慶昊、魯耀翰、楊阮錫、河野貴美子

ワークショップ「地域モデルとしての漢字文化圏人文学の未来の風景を創造する：研究コミュニティとプラットフォーム構築にむけて」 Sketching the Future Landscape of East Asian Humanities in Comparative and Global Context: A Platform & Community Building Workshop

開催方法：対面

日時：2023年3月2日（木）10:00～17:00

主催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所、スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点

共催：MIT School of Humanities, Arts, and Social Sciences（マサチューセッツ工科大学 社会科学芸術人文学部）早稲田大学総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C）20K00303）

登壇者：Wiebke Denecke、河野貴美子、山藤夏郎、沈慶昊、魯耀翰、楊阮錫、陣野英則、田中史生、山本聡美、山本嘉孝、ワトソン マイケル、緑川真知子

拡大するムスリム社会との共生

2022年5月14・15日、早稲田大学戸山キャンパスにおいて、日本中東学会第38回年次大会を、日本中東学会、早稲田大学カタルチェア、および本研究部門とで共催した。詳細は下記のとおりである。

第1日：公開講演会（英語／日本語同時通訳付・オンライン形式）

The Middle East...and beyond: Writing In/Outside the Middle East (A Dialogue with Amin Maalouf) / 『中東を越えて：中東の内／外で書く』（アミン・マアルーフ氏との対話）

対話者：アミン・マアルーフ（作家）、小野正嗣（作家・早稲田大学）、大稔哲也（モデレーター・早稲田大学）

コメント：岡真理（京都大学）、黒木英充（東京外国語大学AA研）

挨拶：アレックス・マレット（早稲田大学カタル・チェア）

本公開講演会はオンライン（Zoom）により実施し、講演者のアミン・マアルーフ氏はフランスから参加した。『アイデンティティが人を殺す』『世界の混乱』（いずれもちくま学芸文庫）など、日本でも知られている著名な作家であるマアルーフ氏が、当学教員らと対談するという内容で、一般の人々の関心も高く、講演会には全国から400名を超える登録があった。

第2日：研究発表（於早稲田大学戸山キャンパス 32号館・対面とオンラインの併用）

2日目は学会員による研究発表が行われた。2つの企画セッション（“Gender, social change, and politics in the Arab states of the Gulf” および「社会変容と儀礼の再構成：現代イランの追悼儀礼から」）と、7部会40人による個人研究発表が行われた。当日はオンライン参加者が146人、対面による参加者が85人で、計231人の参加があった。

心と身体の関係と可塑性に関する学際的研究

【研究会】

第1回研究会

日時：2022年7月27日（水）12:15～14:30

場所：ハイフレックス形式

山本聡美先生話題提供 「中世仏教説話画に描かれた病と障害」

病や障害が、その病や障害を通じて人々を発心や成道へ導くきっかけとして描かれていることを中世仏教説話において説明された。日本書紀、仏教経典まで辿りながら、病が発心への導き手としての「善知識」の役割を果たしていることによって、病と宗教と造形が、深く歴史的に関わる有様を示していた。文化史的視点から、病や障害を通して、身体観が深く心のあり方と結びつくことは、本研究会にとって、心理学、生命倫理学あるいは宗教学などのアプローチとも重なり、示唆を多々含むトピックであった。

第2回研究会

日時：2022年10月5日（水）12:15～14:30

場所：ハイフレックス形式

清水由紀先生話題提供 「子供の身体に関する認知の発達」

他者（とりわけ母親）の顔の知覚と心とそのうちに見ることの関係について、文化によって知覚が集中する部位が異なることや、顔の知覚においてどこに重要な要素を見るか（Top-heavy 仮説とコントラスト仮説）など様々なトピックについて発表が行われた。とりわけ、文化的、社会的環境によって、多く存在したシナプスが環境特化して「刈り込まれること」や社会的手がかりによって、多くの情報からあるタイプの学習を行っていることなどが示された。言語理解についても、他者とのコミュニケーションが内語へと発展する仮説が示され、身体理解における社会性について、研究を深めた。

第3回研究会

日時：2022年11月23日（水）12:15～14:30

場所：ハイフレックス形式

石川遥至先生話題提供 「慢性疼痛に対するマインドフルネス—身体・認知的痛みへの効果—」

マインドフルネス研究による、心理的な痛みの緩和について説明があり、痛みを巡る心身の関わりについて議論が行われた。痛みが心理的なものか、痛みを感じる場合痛みがそもそも種類なのか、あるいは複合的なものではないかなど様々な問題提起があった。質疑応答で、器質的痛みの存在について、心理的要因が痛みを増幅あるいは軽減するののかという点で、問題がそもそも痛みへのアプローチか、それともQOLなどを改善することなど、痛みに伴う2次問題を改善することではないかといった議論が行われ、痛みの本質的な性質について多くの視点を提供した。

第4回研究会

日時：2023年3月15日（水）12:15～14:00

場所：ハイフレックス形式

久保隆司先生話題提供 「心身相関と2つの心理学」

ソマティック心理学の概要について説明があり、ソマティック心理学の3領域として、身体教育、サイコセラピー（身体心理療法）、身体と霊性についての概略を示された。そのうえで、身体と霊性と関連して、現在中心的に研究を進めている宗教心理学について、身体を媒介として人間心理の構造理解に寄与できるものとして、言及された。質疑応答では、そもそも宗教をどのようにとらえるか、また、東洋的宗教と一神教との差異に話が及び、超越理解の問題にまで論点が広がった。

【書籍出版の準備】

早稲田大学出版会と書籍出版の準備打ち合わせを、2022年度末に数回行った。

2023年、3月15日および、メール会議で、出版計画について、研究員および、招聘研究員と打ち合わせを行った。

COVID-19を経験した社会の人文学

第1回研究会（参加者：部門構成員12名、招聘研究員5名、助手1名）

日時：2022年4月23日（土）16:15～17:10

方法：Zoomを利用したオンライン形式

内容：第1回研究会は、研究会の発足を目的とするものであり、非公開で開催された。の参加者を得た。まず、参加者全員の自己紹介（研究内容、COVID-19とのかかわり）を行った上で、今後の研究会の実施方法について合意を形成した。

第2回研究会（参加者12名）

日時：2022年7月22日（金）18:00～20:00

方法：Zoom使用によるオンライン形式。

話題提供者：鴨志田聡子（招聘研究員）

題目：イディッシュ語とラディノ語のオンライン学習活動にみるユダヤ人マイノリティとCOVID-19

コーディネーター：松永美穂（早稲田大学教授）

第3回研究会（参加者15名）

日時：2022年12月3日（金）10:30～12:10

方法：Zoom使用によるオンライン形式。

話題提供者：中澤達哉（早稲田大学教授）

題目：コロナの時代の歴史学と歴史認識：Covid-19の副作用としての「感染症の人種化」

第4回研究会（参加者10名）

日時：2023年3月7日（火）19:00～20:30

方法：Zoom使用によるオンライン形式。

話題提供者：滝口克典（招聘研究員）

題目：「災間の時代」の〈居場所づくり——コロナ禍に抗う市民社会の実践より

コーディネーター：阿比留久美（早稲田大学准教授）

過去・現在・未来をつなぐ社会構想と協働実践

【研究会】

第1回研究会：「部門研究会のキックオフ会合」

日時：2022年4月13日（水）

第2回研究会：「自分の研究を教育に活かす工夫」

日時：2022年6月22日（水）

※西城戸先生、箕曲先生、金の報告

第3回研究会：「自分の研究を教育に活かす工夫」

日時：2022年7月6日（水）

※藤野先生、森山先生、豊田先生の報告

福島取材報告会（NPO 法人 Dialogue for People との共催）

日時：2022年7月11日（月）

下半期には研究会形式では集うことができなかったが部門メンバーが中心となり大学院新コースのあり方・構想をめぐり複数回にわたり実務的な検討会議を行った。

【上映会】

ミャンマー映画ウィーク

日時：2022年6月17日（金）－7月1日（金）

ミャンマー映画ウィークの共催（早稲田大学平和学研究所、アジア研究所との共催）

■自主上映作品：

- ・『ぼくの帰る場所』 <https://passage-of-life.com/introduction/>
- ・『海辺の彼女たち』 <https://umikano.com/>
- ・『白骨街道』
- ・藤元組映画公式サイト <https://fujimotofilms.com/>

■上映予定日時

6月17日（金）「ビルマの軍政権と市民」

在日ビルマ市民労働組合会長 ミンスイ氏 14:45～10号館202

6月27日（月）「海辺の彼女たち」 16:30～18:00 34号館3F355（戸山キャンパス）

6月30日（木）「ぼくの帰る場所」 13:00～14:30 33-333教室（戸山キャンパス）

7月1日（金）「ぼくの帰る場所」 14:45～

7月1日「白骨街道」 14号館102 17:00～18:30

※上映後に藤元監督・渡邊プロデューサーのトーク（+ピースポートによるミャンマー関連ワークショップを企画）